



原村長
清水 澄

皆さん、平成22年の年明けに当たりましておめでとうございます。本年が皆さんにとりまして限りなく発展の年となります様に、ご祈念致します。平素村政へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

わが原村にとりまして、本年が皆さんの幸福実現が達成できる充実した一年でありますことを、願って止みません。

昨年は54年も続いた自民党中心の政権が倒れ、多くの国民の期待を担って民主党中心の鳩山政権が誕生して、国の行き方が大きく変わることを予感させる一年でありました。まだまだ政権運営慣れしていませんので、未熟さが各所で目立ちますが、国民の望んだ政権でありますので、暖かく見守って行く必要があるかと思えます。迷走を含めて政府内での議論が、国民に解り易くなった事は評価して良いと思えます。

原村の昨年は概ね順調に推移した一年でありました。夏の長雨はありましたが、台風は大したこともなく、災害ともならず、安堵でした。新型インフルエンザの不安はありますが、乳幼児への予防接種には諏訪地方でい



原村議長
小池 和男

村民の皆様、新年明けましておめでとうございます。寅年の新春を迎え皆様にとりまして良き年でありますよう、心からご祈念申し上げます。

常日頃より議会活動に対しての、ご指導ご協力を頂き感謝申し上げます。議会報告・懇談会も3年目になり、昨年の9月議会終了後の10月に3地区で開催して全村を巡ることができました。貴重なご意見は委員会では対応してまいります。各区長様等におかれましては、ご協力ありがとうございました。

又、議会活動の報告をする「議会だより」は、2月10日発行分が第100号を迎えます。永年にわたり発行にかかわった多数の議会議員の皆様にも御礼を申し上げます。

日本経済は一昨年の百年に一度と言われたサブプライムローンに端を発し、昨年のリーマンショック、ドバイショック等、世界同時不況の影響を受け、今はデフレスパイラル景気低迷を余儀なくされ、国民生活は厳し

ごあいさつ

ち早く、村独自の補助と集団接種で対応した他小学生・中学生にもワクチンの確保され次第行なって行きますので安心して戴きたいと思えます。原村の行き方は住民の健康福祉を第一と考えています。

アメリカのリーマンブラザーズ破綻に端を発する雇用や経済不安に対して行なわれた、国の定額給付金や緊急経済対策もきちんと行なって来た所でありまして、地域経済の大きな刺激になったものと思えます。

さて希望に満ちた平成22年は、どんな年になるでしょうか。国においては不況のこともあり、史上最高の予算で国民の福利増進と経済の立直しを図ろうとしています。が、疲弊した地方の活性化も図って欲しいものと思えます。

本村にとつては、原村のカラーといったものを確立する一年にしなければなりません。

原村は現在転入により年間50人位の人口増です。これは原村に人を惹きつける魅力があるからであり、それは現に住んでいる住民にとつても幸福を実感できるものであるかと思えます。それらの魅力こそが原村のカラーであり、これら特徴として、村づくりを進めたいものです。自然環境が豊かで生活に潤いと癒しを感じられること、人々が暖かく隣人同士が手を取り合つて人の和が感じられること、心に余裕があつて見知らぬ人でも親切に応待すること、子供の遊び声が村中に満ち溢れ活力が感じられること、農業や産業が盛んで活気に満ちていること、ゴミが落ちていず美しい村であること、これらが原村のカラーであり、魅力と特徴であり、住民皆の協力で維持発展させて行かなければならぬものだと思います。行政としてもこうしたカラーをより一層はつきりと、育成強化して行かなければなりません。

今年も精一杯明るい村づくりを務めてまいります。皆様のご多幸を念じつつ新年のご挨拶とします。

い社会経済状況下におかれております。

地方自治体にとつては、深刻化する少子・高齢化による人口減少、逼迫する財政状況という厳しい現状に加え、多様化する住民ニーズへの対応が求められており、取り巻く環境は、急激に変化しております。

一方、政権交代が実現し、地方分権への潮流は大きなうねりとなり、具体的な動きを見せ初め本格的な地域主権の時代が目前に迫っております。これからは、各自治体が自分達の最適を主張するのではなく、全体を考えた政策を実行するよう意識改革が求められています。議会では、このような山積する諸問題に対処するべく対応と共に議論を重ねていきます。「議会報告・懇談会」、「女性団体との懇談会」はこれからも続けていき「中学生議会」などの意見を議会活動に生かしていく所存でございます。

現議会には女性議員が居りません、生活の一躍を担っている女性の目線も必要であります。

議会では年4回の定例会と臨時会で審議を行い議決しています。昨年の臨時会は国の景気対策などの補正等があり、5回もの開催でありました。

本年より公共交通の実証実験が始まる予定です。キャッチフレーズは「乗って残そう公共交通」です。村民の皆様のご協力をお願いします。原村の人口は、わずかながら増加しています。「安心・安全で暮らせる村づくり」のために議会も全力傾注し村民の負託にこたえていく所存でございます。

村民の皆さまの相変わらずのご指導、ご鞭撻をお願いして、新年のご挨拶といたします。

10/10 JOMOあゆみの森第2期 森林(もり)の里親契約調印式



原村とジャパンエナジー、長野県で第2期の契約調印式を行いました。契約期間は2010年4月から3年間となります。

10/17・18 地域づくり全国交流会議 原村大会



全国各地の特色ある地域づくりの実践例や課題を情報交換し、地域活性化推進につなげることを目的に開催されました。

11/28 わらによう作り3年ぶりに復活



かつて稲わらは、家畜の餌や冬のわら細工の材料として大切な資源で、わらによう作りはよく見られる晩秋の風景でした。

7/2 アクアマリン原村星の降る里コンサート



原小学校体育館にて行なわれました。アクアマリンから原村に寄贈された「星降る里」など12曲が演奏されました。

8/22 第17回原村よいしょまつり



晴天に恵まれ、絶好のお祭り日和となりました。会場には大勢の方が訪れ、お祭りを楽しんでいました。

9/21 御柱祭in赤坂サカス



御柱の実演や木遣りの披露、諏訪地方のキャラクターも参加しました。また、TBS主催の「赤坂マルシェ」と題した物産展にも出店しました。

2/23 県営圃場整備事業竣工記念式典(原村西部地区)



平成5年に事業を採択後、平成20年度末に全ての事業が完了しました。総事業費30億7,200万円/田畑の受益面積136ヘクタール

4/8 歯の日の取り組み始まる(8のつく日)



村の健康増進計画「健康はらむら21」や「原っ子保健委員会」では、歯の健康に関する取り組みを推進しています。

5/18 新規需要米(米粉)栽培調印式



米の生産農家4名とJA信州諏訪、諏訪市にある高山製粉の3者が県内初となる米粉用米の生産供給契約の調印式を行ないました。

1/17 第10回原村村民冬季スポーツ祭



天然リンクでの大会。優勝はやつがね区でした!

特集

写真で振り返る

原村2009

新年あけましておめでと〜ございませう。皆さんにとって、昨年ほどどんな一年だったでしょうか。今回、2009年に起きた、さまざま出来事を写真とともに振り返ってみたいと思います。

2009年 主な出来事

- 17日 (12月) エコライン開通式
- 29日 室内区収穫祭
- 28日 わらによう作り (3年ぶりに復活)
- 13日 公共交通あり地域住民懇談会 (5ヶ所で開催)
- 9日 新型インフルエンザワクチン接種費用の補助
- 7日 原村表彰式
- 2日 第56回原村文化祭 (8日)
- 29日 原村早起野球連盟40周年記念式典
- 25日 中外製薬(株)から社協へ福祉車両寄贈
- 24日 ズーラ初参加
- 17日 地域づくり全国交流会議 原村大会開催 (18日)
- 10日 JOMOあゆみの森 第2期森林の里親契約調印式
- 1日 役場庁舎改修工事始まる (平成22年8月31日)
- 6日 原村敬老会
- 21日 清水大士さん旭日単光章受章
- 18日 御柱祭in赤坂サカス (観光イベント開催)
- 30日 原村総合防災訓練 (中新田区)
- 29日 衆議院議員総選挙 (政権交代)
- 28日 中央公民館耐震補強・トイレ他改修工事 (2月10日)
- 23日 全国中学校陸上大会 男子800m
- 22日 第1724回原村よいしょまつり
- 21日 第24回原村ふるさと大会
- 1日 原中学校給食等地震補強・内部改修工事 (10月30日)
- 13日 判之木区発足50周年記念式典
- 7日 第25回八ヶ岳開山祭
- 1日 原中学校給食等地震補強・内部改修工事 (10月30日)
- 18日 御柱宣伝大使コンテスト開催
- 17日 新規需要米(米粉)栽培調印式
- 8日 歯の日の取り組み始まる (8のつく日)
- 15日 保育所未満児棟地鎮祭
- 13日 傾聴ボランティア養成講座始まる
- 8日 中新田区創立400周年記念式典
- 19日 平成21年度原村の予算決まる
- 23日 地域づくりアドバイザー事業講演会
- 11日 県営圃場整備事業竣工記念式典 (原村西部地区)
- 17日 第10回原村村民冬季スポーツ祭
- 11日 肥料価格高騰に対する補助事業説明会
- 8日 原村消防団出初式・表彰式
- 3日 御来光登山及び元旦マラソン
- 1日 原村成人式

米粉の普及に取り組んでいます

原村では今年度より新規需要米(米粉用米)の栽培と米粉の消費拡大に取り組んでいます。

■米粉とは？
米粉とは、うるち米ともち米から作られる米の粉の総称です。従来からうるち米を粉にした上新粉や、もち米を粉にした白玉粉などがあり、だんごや和菓子などに利用されてきました。

近年、従来の米の粉を更に細かく製粉する技術が開発され、それにより製粉された微細粉(一般的な小麦粉と同程度の大きさ)を利用してパンやケーキ等の調理にも使用されるようになりました。

■米粉の特徴

- ①新食感
しつとり、モチモチ、さつくり、カリッと調理方法によつて新たな食感が楽しめます。
- ②どんな食材とも相性が良い
いろいろな食材との組み合わせで調理が可能です。
- ③良質なたんぱく質
必須アミノ酸が小麦粉より多く含まれています。
- ④小麦アレルギーでも安心
小麦アレルギーの方でも小麦粉のかわりに米粉を使えば安心して食べられます。



米粉パンの試食の様子

- ⑤食物繊維が豊富
食べた後の消化がゆっくりで血糖値が上がりにくいとされています。
- ⑥調理や後片付けが楽
グルテンを作らず「ダマ」になりにくく、使った容器等も水洗いで簡単に流せます。

■米粉普及の目的

- ①食料自給率の向上
日本の食料自給率(カロリーベース)は約40%と低く、特に食料用の小麦は86%を輸入に依存しています。それに対してお米は国内で100%生産することも可能

な穀物ですが、年々消費量は低下している状況です。輸入小麦の代替として米粉用米を生産・消費することで食料自給率の向上を目指します。

②地産地消の推進
地元で生産された農産物を地元で消費することで、消費者の地場農産物に対する愛着心や安心感が深まります。地元が生産物を消費拡大することは地元の農家を応援することにもつながります。

③生産調整の達成に向けて
お米の生産量が消費量を大きく上回ることで農家の販売価格が下落したり、必要以上の備蓄米を作らないために水稻の生産調整が行われています。原村の水稻栽培は県より配分される作付け枠を大幅に上回り、他地区より作付け枠を購入するような形で対応しています。米粉用水稲は転作扱いとなるため、現在、生産調整を達成していない水稻生産農家に米粉用水稲の栽培を推進することで、生産調整の達成を目指します。また、生産調整のため主食用水稲を作付けできない水田の有効活用としても取り組んでいきます。

④安定的な原料供給体制
中国やインド等の経済発展による食料需要の増大、バイオ燃料の原料として穀物等の需要増大、地球規模の気候変動等により国際的な食糧不足が発生した場合、原料価格の高騰や原料の供給不足を緩和し、不安が解消されます。

■米粉用水稲の栽培
米粉の取り組みを始めるにあたり、今年3月に米粉用水稲の栽培農家を募集したところ、4名の方から応募がありました。作付面積は約3.6畝(収量で21t)を見込んでいます。4農家と米粉用米を集荷するJA信州諏訪、集荷された米を引き取り米粉を製造する(株)高山製粉との間で、生産から販売等に関する契約書を作成して5月18日には新規需要米(米粉)栽培調印式を開催しました。



この契約の締結により米粉用米の栽培は、生産調整分(転作)として認められることとなります。

■米粉の消費拡大

米粉も需要がなければ生産しても意味がありません。米粉の需要拡大をすることが今後の米粉用水稲栽培の維持・拡大につながります。

①米粉利用食品の開発・販売

米粉を利用した商品を新たに開発・販売することにより米粉の需要を増やします。今後は村内で米粉食品を提供する飲食店や事業所をパンフレット、ホームページ等を利用して積極的にPRしていきま

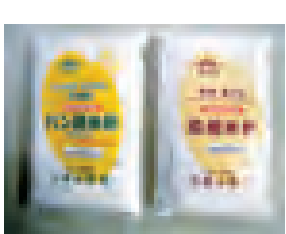
②一般家庭への普及

普段の家庭料理に使える米粉を利用したレシピや調理方法を集め、広報紙等で紹介していく予定です。また、料理講習会やイベントの際に米粉を利用して普及に取り組んでくれる団体等を支援していきます。

■原村産あきたこまちの米粉が販売されています

4農家で生産されたお米を製粉した米粉が商品化され、販売が始まりました。

①米粉の種類
米粉には料理やお菓子作りに向く微細粉(米粉100%)と、パン用米粉(米粉80%、小麦グルテン20%)の2種類があります。



オリジナルの米粉を使った料理のレシピ等がありましたら是非ご提供ください。今後の普及活動に活用させていただきます。

②米粉の入手方法

JA信州諏訪Aコープ原村店
(株)高山製粉

製粉
ご家庭の保有米を製粉業者に持ち込むことで米粉にすることができます。条件や料金等は業者へご確認ください。

製粉業者 (株)高山製粉
諏訪市中洲神宮寺465-3
電話52-1245

■申込み・お問合せ先
原村水田農業推進協議会事務局
(農林商工観光課農政係)
電話79-7931(直通)

カカシコンテスト開催

室内むらづくり委員会より

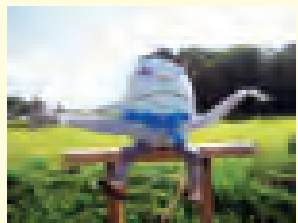
室内むらづくり委員会は、カカシコンテストと題し、コンクールを開きました。地域水田を水質浄化及び観光資源として広く周知し、農村環境への意識向上及び地域活性化を図りました。コンテストの参加においては、長野日報等を通じて募集を募り23体のカカシが集まりました。

審査では室内区長、原村営農センター、農業改良普及センター、役場関係者で行いました。

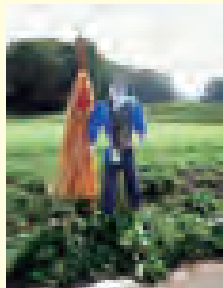


審査基準は次の通りです。
・主旨に即しているか
・スタイルがユニークでオリジナル
・創造的・芸術的である
・田とカカシとが互いに景観を織り成している
以上の4項目・各5点の20点満点で審査をしました。

上位表彰作品は次のとおりです



原村長賞
小林哲也さん



原村農業委員長賞
清水正進さん



JA信州諏訪賞
平林 透さん

9月6日に室内むらづくり委員会主催でカカシコンテスト審査会が行われました。
表彰式は、11月実施予定のあきほの郷収穫祭に併せて行います。以上のような活動を通じ、より一層地域活性化を図っていきます。



JA農業祭原村会場での米粉普及活動の様子 (JA信州諏訪女性部原村ブロック)